

# 下関市豊北町粟野表面採集の八稜鏡について—資料紹介—

岩見博幸<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

この八稜鏡は、2009（平成 21）年 3 月 26 日に筆者自身が下関市豊北町粟野郷西下・外久保にて表面採集した遺物である。豊北町粟野にて未周知の古墳の踏査にて偶然発見したものであり、その日のうちに土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに報告した。

## 2. 採集地の紹介

豊北町粟野は山口県の西端に位置する下関市の最北に位置し、下関市豊田町から日本海に流れる粟野川の河口の地区である。

粟野地区郷西下の西側に標高約 30 m の丘陵がある。油谷湾に面したこの丘陵あたりは外久保とよばれ、丘陵尾根はほぼ南北に指している。この丘陵の北側先端頂上部が採集地である。

## 3. 採集時の状態

この丘陵の北側先端頂上部に御堂の跡らしき所があり、御堂の建築材と思われる廃材が散乱している。その御堂跡の東側約 1 m 付近にこの八稜鏡が地表面から 3 分の 1 程度埋まった状態で露出していた。現状から本資料はこの御堂のご神体と思われ、御堂とともに廃棄されたものと思われる。

## 4. 八稜鏡の特徴

本資料の特徴は紐が二つあり、内區に文様がなく素文とよばれるものである。内區の素文は約 0.4 mm～0.8 mm の目打ちの文様である。八稜鏡の外径は花卉の最大で 120 mm、最小で 102 mm である。外區縁巾 3 mm、外區縁厚 5 mm、内區縁厚 2 mm である。紐の大きさ 5 mm、巾 3 mm、孔径は約 1 mm である。鏡背の中心から上に 32 mm 振り分け、42 mm の所に二つの紐がある。この鏡と同様の鏡を管見では見出せないため製造時期はわからないが、鑄造の上がりから江戸期のものではないかと思われる。

## 5. おわりに

丘陵の御堂跡について地区の人に尋ねたところ、「ひゃくしょう」という神様が祀られていたことはわかったが、この神様については調べてみたもののわからなかった。この度、本資料を紹介するにあたり、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの方々にご配慮戴き感謝申し上げます。八稜鏡は現在筆者自身が所有しているが、調査終了後は土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに寄贈する予定である。

註)

1) 山口考古学会員

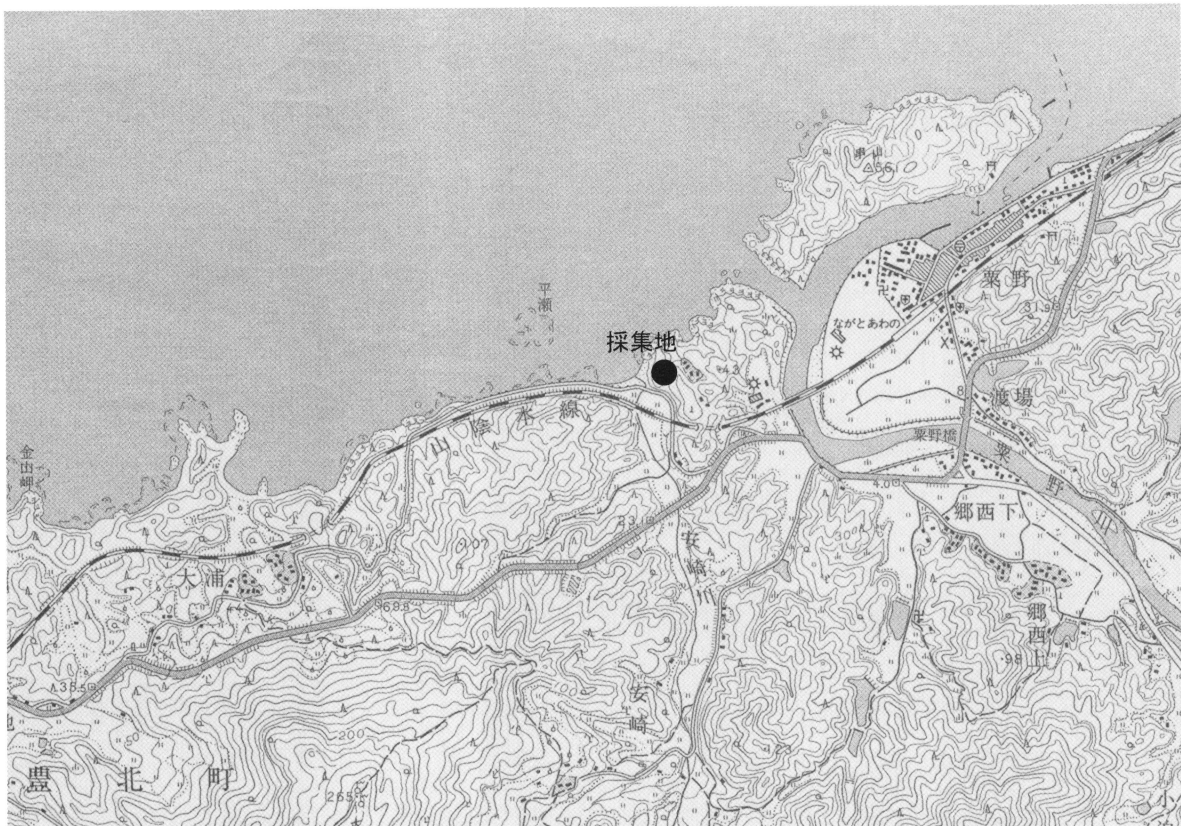


図1 八稜鏡の採集位置 (1/25,000)



写真1 採集した八稜鏡

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第5号

発行年月日 2010年3月  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8  
TEL 083-788-1841・1842  
FAX 083-788-1843  
印刷 アリフク印刷株式会社  
〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8  
TEL 083-785-0311  
FAX 083-785-0312

---